

テーマ 中国語の発音習得における義太夫教授法のヒント

適用分野 中国語教育、中国語発音の理解

研究名称 義太夫教授法と中国語教授法

氏名 石井康一 准教授
所属 国際言語文化センター

内容

●特徴

中国語に限らず、ことばを力強く相手に伝えるには何が必要なのだろう。基礎段階の学習者は中国語の発音をピンイン（拼音）というローマ字表記を通して学ぶ。中国語の一つ一つの音節には四つの「声調（高低アクセント）」があり、主となる母音の上にわかりやすい形で書いてあわす。表音文字でない漢字の発音をアクセントも含めて覚えなければならないこと、日本語にない声調を駆使しなければならないことが中国語の発音が難しいとされる理由であろう。

●研究内容

中国語は高いところでぐっと押す第1声・低いところから急上昇させる第2声・低く押さえ込んだ第3声・高いところから急降下する第4声、以上4種のアクセントがあり、それぞれの特徴をはっきりさせてこそ中国語らしい中国語になるのだが、学生の発音は日本語の狭い音域の中で処理しがちだ。また、中国語の6つの母音の特徴をはっきりさせてこそ伝わりやすくなるのだが、あまり口をあけない学生の発音は母音の区別がつきにくい。また授業中に朗読させても声が小さくて困るとするのは外国語教員に共通の悩みである。

その解決法のヒントを、自身が8年間続けている義太夫の稽古に求めた。義太夫（正式には義太夫節）は日本の伝統芸能の一種であり、一般には文楽（人形浄瑠璃）の語りとして認知されている。義太夫は分析すると「詞」と「色」と「地合」の部分からなる語り芸である。「詞」とは登場人物の台詞の部分であり、「地合」とは旋律部分、「色」は両者の中間に位置する部分、両者をつなぐ部分である。詞は大阪のことばを基準としたアクセントがある。地合と色は音楽性が強い。音楽性の強い義太夫の特色、そして観客（聴衆）に力強く言葉を伝えるべきであるということ。そのための技法は中国語の発音習得にも応用できる。

まるで歌を歌うように声調を駆使して中国語を話す醍醐味をどうしたら体得できるのかという問題意識で義太夫教授法を考察する。

パン！ といへばパンが存在する
石ころ！ といへば石ころが存在する
だから言葉は存在のやうにおそろしい
----那珂太郎「秋の散歩」

キーワード 中国語、発音、ピンイン、義太夫、声調、文楽、人形浄瑠璃

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究